

## 最終成果

### 市民社会の成果

### 究極の民主社会＝みんなの幸せ

市民が、人任せにすることなく  
自ら進んで支え合い  
過去を敬い、未来に責任を持つ  
そんな完成社会を実現して  
全ての人がある人らしく生きて行く

※解説

市民社会の理想郷を表現しました。

何はともあれ市民が“他者依存性向”から脱却することが市民社会成熟の第一歩です。

しかしながら、先の中曽根翁の指摘のとおり、市民主義はややもすると目先の安楽な幸せに固執して、過去の歴史を敬い、未来に責任をもつことをないがしろにする傾向があります。

古代ギリシャが陥った衆愚政治の轍を踏まない民主完成社会は、容易いことではありません。

今、我々はギリシャで芽生えた民主主導から数千年の試行錯誤を経て、ようやく完成期への端緒についたところです。

人の幸せは様々・・・それをあまねく実現するには、人が逃げずにその人らしく生きて行くこと。

### ふくてっくにとっての成果

### 楽しく、楽をしない市民活動＝仲間の幸せ

責任ある発言と行動  
自他共に認める“新しい公共”

※解説

企業は、最小限の労力で利益の極大を目指します。最も効率のよい費用対効果が安定ポストです。

それ以上の努力は、例えそれによって利益（効果）が増加するとしても、控えてしまう。

しかし、市民活動は、そうではありません。努力そのものが活動の目標でもあるからです。

費用対効果の合理性を超えてでも理想を追うところに、活動の、いや人生の喜びがある。

そのような観念が会員に共有できたとき、ふくてっくは“新しい公共”となるのです。

仲間のなかで、ひとりひとりが“楽”を求めれば、“楽”はすぐに尽きてしまう。

“楽”を分かち合い、“楽”を与え続けてこそ“楽”は生み出される。

### メンバーにとっての成果

### 前進する自己実現＝私の幸せ

個人として、組織人として  
多様な形態での自己実現が達成できる喜び  
かけがえのない出会い

※解説

会員には、ふくてっくに参加することについて、それぞれ固有のモチベーションがある。

その思いは十人十色。その違いをお互いに容認しつつ、がんばりたいときはがんばり

休みたいときは休む。しかし、それぞれのペースで前進する気持ちは捨てない。

多様な生き様をぶつけ合いながら、その中で自分の人生を確かめてゆくことのできる・・・

いつも、新しい自分を発見できる集いに出会えた喜びがある。

## ロジックモデルに盛り込んだ主な構想（抜粋）

### 【会運営の全体方針】

- ・健全経営 固定費は安定的な収入で賄う経営体質に転換させて行く。  
多様な事業展開を推進し、非収益でも意義ある社会活動を活性化させる。  
平成 25 年度の認定 N P O 法人格の取得を目標として、要件の整備に着手する。
- ・例会運営 より楽しく意義ある例会を実現して、例会活動をふくてっくの中核とする。  
このために、学習会に一部シリーズ手法を取り入れる等による充実に努め、  
学習会を含む例会記録をより確かなものとして、内外への情報発信を強化する。
- ・企画  
・事業  
・渉外 平成 25 年に 20 周年記念事業を実施して、さらなる飛躍の契機とする。  
収益事業・社会貢献事業のメリハリをつけ、待ちの姿勢から主導の姿勢に転換。  
諸団体等との関係性を総括しつつ、連携を拡大・活性化する。  
外部連携は、重要な執行部活動と位置づけ、情報の迅速な伝達と活用に努める。
- ・開発  
・広報 ふくてっくらしい“ものづくり”“ひとづくり”に向けて技術開発に取り組む。  
広報ツールを多様化して、外部への情報発信を高度化するとともに  
内部に対して（特に新入会員への）迅速的確な情報提供を図る。
- ・親睦 現会員の親睦融和を図る企画を催すほか、特に新入会員が早期に会に馴染めるよう、  
また会員の隅々からの声を吸収して活動参加を促進する活動に取り組む。

### 【部会等の活動方針】

- ・住環境研究 今後の超高齢社会への対応について、個人的課題・社会的課題の克服を探求し  
個々の、そして廻りの人々の不幸の回避と幸せの実現を求めてゆく。
- ・研修 当初の思い（学びたいという会員の思いを受けたバリエーションに富んだ）にそった  
研修内容の充実を図り、外部に向けた研修企画を実践する。
- ・木工  
・福祉用具  
・東大阪 工房の復活を目指して、活動の発展を画する。  
部会目標を明確にして、計画的に実現可能なテーマに向けて活動を推進する。  
的確・公正な検証システムをさらに錬磨して、他地域へ波及させる。  
また、検証外活動も活発化して、地域福祉の推進に寄与し、  
究極はこうした適正検証が不要となる社会の構築を理想として活動する。
- ・こむねっと 第三者評価と建物定期検査報告をそれぞれ本格的に再開し、早期に事業成立を図る。  
二事業はやがて統合して総合的なコンサルティング業務に発展させる。  
このために、第三者評価については、評価事業そのものの普及促進を確固たるものに  
すべく、評価機関連絡会の力を結集して府推進機構を動かし、全国にも働きかけて  
府県の枠を撤廃するなど抜本的な改革を目指す。  
建物検査報告については企業との連携を模索して事業展開の技術的・営業的レベルを  
向上する。

### 【復興事業】

- ・住宅改造 ふくてっくが担うべき住宅改造テーマ（民業が取り組みがたい領域）を特定して、  
再びふくてっくの基軸活動として復興する。  
需要を待って活動するのではなく、多方面との連携による積極的な活動展開システム  
を創り、“声なき需要”に応える。  
往時の“三位一体”を復活して、福祉・医療の視点導入を発展させるほか、  
改造後の生活をフォローする“四位一体”の取組システムを確立する。  
やがては、個々の住宅改修（バリアフリー）という概念から、  
地域福祉に着眼したまちづくり（ユニバーサルデザイン）をめざす。